



## 『脱！酔っぱらい言葉』

校長 海 頭 巖

朝のテレビ番組で林修先生の『ことば検定』というコーナーがあります。ご存知の方もいらっしゃると思います。言葉のもつ意味の深さ、味わい、そして語源などたくさんのお話を学ばせてもらえる興味深いコーナーです。

さて、わが家の庭でしっかりと咲き誇り、私の心を大いに満たしてくれたバラの花は、もう終わりを告げました。ひらひらと落ちていく、一枚一枚のバラの花びらにも心を寄せ、『花は散るころが最も風情がある。』の言葉に「ふむふむ」とうなずく一時もありました。そんな時、花によって花の散る様の表現に違いがあることをふと思い出しました。『桜』と『椿』は思い出したのですが、『梅』は「何だったっけー?!」。「あれあれ！それぞれ！」としかどうしても言葉が出てこないの、調べてみました。すると『梅はこぼれる』でした。「あっ、そうそう・・・！」と片隅にある記憶が徐々に蘇ってきました。他にも花によって散る様の表現に違いがありましたので、書き留めておきました。

『桜』は散る／舞う      『梅』はこぼれる      『椿』は落ちる  
 『菊』は舞う      『牡丹』は崩れる      『雪柳』は吹雪く      など

古くから伝わる日本語の美しさや味わい深さをあらためてしみじみ感じた次第です。

私がかつて経験した教室での会話です。子どもたちから「先生、ゴミ!」、「先生、トイレ!」、「先生、気持ち悪い!」・・・などと。私も思わず、「おいおい、先生はゴミじゃあないぞ!」、「先生は便所じゃあない!」、「先生のことがそんなに嫌い!」などと応戦したことを思い出します。子どもたちの言いたいことは分かっていたのですが、つつい・・・これではお互い相手への心遣いや思いやりなど全くないですね。「先生、このごみはどこに捨てたらいいのですか?」「先生、トイレに行きたくなかったのですが、行ってもいいですか?」「先生、気分が優れないので、保健室に行ってもいいですか?」というように、言葉の遣い方を一つひとつ丁寧に教えてあげないといけないのです。

最近、教室の中にも、こんな『酔っぱらい言葉』が侵入し、横行してきたと強く感じています。子どもたちを取り巻く言語環境は、日に日に悪くなるばかりです。『酔っぱらい言葉』とは、お酒の酔いが深まると、修飾語、形容詞、副詞、接続詞そして助詞と次第にはげ落ち、むき出しの名詞と名詞とがぶつかり合いを起こしてしまう言葉のことです。

言葉の技能(コミュニケーションスキル)が問題になっています。あいさつをしっかりと、敬語をどうするか等々をめぐってですが、それらより『酔っぱらい言葉』はもっと事態が深刻です。仲間だけに通じる言葉で、会話を楽しみ友情を固めることもあってよいと思います。しかし、きちんと話すべき時には正しい日本語で、礼儀正しい言葉遣いをしなければならないと思います。

『花は人の心を映す』と言われます。言葉が乱れてしまうと、人の心もすさんでしまいます。子どもたちは純粋で無垢なところをたくさんもっています。子どもたちが咲かせている花を枯れさせていけません。そのためには、大人たちの言語環境を整えていくことがまず大切になってくるのではないのでしょうか。まずは大人から『脱！酔っぱらい言葉』を。

まさに林修先生の言葉ではないですが、『いつやるか?今でしょ!』なのです。